

# 为 <sup>ウェイ</sup> 了 <sup>ラ</sup> 明 <sup>ミン</sup> 天 <sup>ティエン</sup>

明日のために

子どもたちに希望を 人々に友情を

特定非営利活動法人 宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会

<http://www.sokeirei.org>

## 今こそ、日本の子ども支援に立ち上がろう!!

### 東日本大災害に対し、 心からのお見舞いと熱い支援を届けよう!

NPO法人 宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会

代表理事 諏訪 きぬ

当会は、一貫して日中友好を目指し、中国の貧困地区の子どもへの教育支援と母子保健支援を行ってきました。四川大地震に際しては、被災児支援のワゴン車<移動少年宮>を当会の救援として贈りました。

しかし、3月11日、突如、わが国を震撼させたマグニチュード9の大地震、町も人も呑み込んだ巨大津波、さらに福島第1原発の事故は、わが国の状況を一変させてしまいました。

長年共同活動を推進してきた中国宋慶齡基金会、上海宋慶齡基金会からも丁重なお見舞いと同時に、災害支援へのお申し出を戴きました。そこで本年は、中国貧困地区支援を一時中止して、日本の被災地の子どもたちへの支援に立ち上がることを、4月16日の会議で決めさせていただきました。

多くの災害孤児が生まれ、多くの幼稚園・保育園が壊滅状態にあります。施設設備や教材・教具、絵本や遊具を揃えていくことだけでも、多大な経費を要するでしょう。ようやく災害復興に立ち上がりはじめた大人たちを支援するために保育を支援することは重要な手立ての

一つと考えられます。会員・支援者の皆様とともに災害地の保育の復興を手助けし、幼子の心を癒し、親たちの復興への意欲を支えていきたいと思えます。どうぞ趣旨をお汲み取りいただき、ご支援をお願い申し上げます。

現段階では、未だ保育被害の全容を掌握し切れていませんが、日毎確かな情報を探り、適切な支援の道筋を立てて行きたいと考えます。すでに保育を再開した地域もあるようですが、まだまだ日々の生活物資も行き渡らず、安らぎの無い暮らしを続けている方々や子どもたちも多いことも実情です。しかし、子どもは日々生育し、心身の栄養と保護を必要としています。「子どものことは、待てない」と、宋慶齡女史が常々口にされていたことを思い起こします。

できるだけ早く、然るべき現地の方々と連携して、被災地の子どもたちの育成—保育を励まし、支援する具体的なプロジェクトを立ち上げ、皆様にお知らせしたいと思います。

皆さまの熱いお心ご支援をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

# 第9回 総会報告

2月27日、第9回総会がJCC事務局のある第一八王子ハイツ集会室で開催されました。

2010年度は、中国河北省易県の5小学校に対する「机と椅子」(60万円)及び6小学校に対する図書セット(40万円)の寄贈、京友会による寧夏回族自治区南部の2小学校に対する新華辞典(6万円)の寄贈等、3プロジェクト(合計106万円)を継続実施しました。皆様のご支援に心から感謝いたします。

2011年も、河北省への「机と椅子」(60万円)、図書セット(40万円)と寧夏への新華辞典(6万円)の教育支援を実施することが承認されました。

〔追記〕3月11日の東日本大震災発生により、前述の通り、当会が国内被災地への緊急支援プロジェクトを実施することになりましたので、中国側の了解を得て、今年度の河北省への支援は中止し、来年以降については、再検討することになりました。

## 2010年度 収支計算書

2010年1月1日より2010年12月31日

科 目	金 額		
	内 訳	期中小計	期中合計
<b>収入の部</b>			
I 寄付金収入合計			2,377,780
正・維持会費		1,255,000	
プロジェクト寄付		1,122,780	
幼児教育支援事業	0		
母子保健事業	0		
教育支援事業	246,000		
図書セット寄贈事業	151,000		
カンパ	725,780		
II その他の収入合計			42,299
中国への理解を深める為の活動		41,000	
中国講座	41,000		
預金利息		1,299	
当期収入合計			2,420,079
収支差額前期繰越金			3,875,283
当期収入合計			6,295,362
<b>支出の部</b>			
I 事業支出		1,060,000	
教育支援事業	660,000		
図書セット寄贈	400,000		
II その他の支出		113,850	
中国講座	113,850		
III 運営費		1,162,665	
振替口座加入者負担	22,730		
事務室管理料	264,120		
水道光熱費	67,666		
旅費交通費	1,260		
通信費	212,856		
広報活動費	278,250		
会議費	15,714		
国際交流費	0		
消耗品費	62,500		
海外送金料	6,500		
コピー機リース料	148,680		
原価償却費	40,864		
雑費	41,525		
当期支出合計			2,315,515
収支差額次期繰越金			3,979,847
当期支出総合計			6,295,362

## 追悼 高良真木さん



立春大吉と大書した、9月平塚美術館で開催の女流画家三人展のご案内を受け取ったその日、2月1日に高良真木さんは急逝されました。はがきには、尖閣諸島沖の衝突事件をめぐる日中関係を憂慮する添書きがありました。

高良真木さんは、日中友好・交流活動の先輩として日本における宋慶齡基金会の事業発足の時から支持していただき、昨年他界された浜田糸衛さんとともに、日中友好神奈川県婦人連絡会(婦連)を率いて、特に中国・寧夏回族自治区西吉県の女性職業訓練センターの設立と発展を支援して下さいました。本会では、理事としても様々にお力添えいただきました。

ご冥福をお祈りし、併せて感謝申し上げます。

真木さんは、1952年、日中関係の扉を果敢に開き、両国の民間貿易協定成立に貢献された高良とみさん(当時参議院議員)の長女です。彼女自身の最初の中国訪問は、1953年6月、コペンハーゲンで開催の世界婦人大会参加のための出国の時でした。彼女は、米国留学からの帰国直後で、通訳として参加されました。ところが旅券の発給が遅れ、該大会に参加できずにいるところ、偶々招待され、ソ連と中国への訪問が実現したのです。その時の団長が浜田さんでした。半世紀を数えるお二人の日中友好コンビの始まりでした。(久保田博子)



## 中央アジア・南コーカサスの 政治・経済の現状と日本の立場

中央アジア・コーカサス研究所所長  
講師 田中哲二さん



- I. 中央アジア5か国と・コーカサス3か国はユーラシア大陸中央の乾燥内陸部のランドロックカントリー群で現在は交通・輸送の制約のために開発が遅れている。歴史的には旧シルクロードの天山山脈の北路に位置し、大航海時代までは古トルコ族を中心とする文明・宗教・交易の十字路であった。東西冷戦時代にはフロントラインとなり、1991年にソ連邦から独立し、自由化、市場経済化志向が強まった。またイスラーム圏の東北端にあたり、イスラーム活動の復活・北上が盛んになっている。
- 9・11事件後には米軍等がこの地に進出する一方で、ロシアによる対欧州天然ガス外交の展開、グルジア紛争への介入、ウクライナ大統領への影響などがみられる。
- II. 中央アジア・コーカサスへの関心の高まりの背景としては、非OPECとしてのエネルギー資源の供給地となっており、独立した国に国際金融資本が次々と進出し、カスピ海周辺の石油開発が進められた。さらにBTCパイプラインが開通され、豊富なウラン・レアメタル・レアアースの埋蔵が知られるようになった。最近では、この地の地政学的ポジションの重要性が再認識されている。①東西冷戦時の争点が依然残されている。②9・11後のアフガン問題、イラク問題、さらにイラン問題に対応するために米空軍が初めてこの地に進出し、ヒンターランドとして利用している。③また中国とロシアが活発な開放政策にともなう、アジア・ヨーロッパ陸上回廊としての、シルクロードの現代的復活を目指している。

- III. この地域の政治的共通点としては、ソ連時代の共産党の地区最高幹部らが、独立後の大統領に就任し、長期政権化している権威主義的体制がほとんどである。アゼルバイジャンなどは父親から息子への世襲も起こっている。民主的選挙も行われているが、権威主義体制による巧妙な政治支配が続いている。次に経済的な開発を東アジアとの経済発展との違いをみていくと、東アジアでは経済が発展して来ると、政治的には独立からしばらくは開発独裁が行われたが、その後は政治的民主化が進められていったのに対して、中央アジアの場合はそうはなっていない。警察や軍などの強圧的政治による統治ないしは民衆の要求による下からのカラー革命の可能性はある。しかし、現状では経済拡大路線は、安定的政権の継続につながっている一方、政治の民主化にはつながっていない。
- また独立後の「国民国家」アイデンティティ形成に先行する「部族主義」「地域主義」さらには、「ネボティズム」への先祖返り状況が見受けられる。
- IV. 緩慢な市場経済移行テンポの要因として、多くの不利な開発条件 ①ソ連邦崩壊による準備不十分な「柵ボタ独立」 ②二重の経済建設負担 ③インターロックカントリー群 ④水などの天然資源の偏在 ⑤東アジアとは異なる不利な国際経済環境 ⑥エネルギー部門以外の

海外からの不十分な投資、があげられる。

さらに中央アジア・コーカサス諸国の経済状態は独立後、計画経済から離れたことにより、資源のない国々は、1992年以降大変厳しい状況で推移してきた。

V. 大国に挟まれたこの地域は小国としてのバランス外交を展開し、①ウズベクの米ロ天秤外交、上海協力機構加盟、GUAM脱退 ②キルギスの米軍基地とロシア基地の併存政策 ③トルクメニスタンの天然ガス供給パイプラインの多角化と価格交渉力向上などの資源・地政学的重要性を巧みに利用している。

VI. 日本の立場としては、現地の高い親日観を支えてきた要因として ①民族特質の類似性 ②日露戦争の影響 ③第二次世界大戦後の日本人抑留者の残したイメージ ④サムライ・武士道の国のイメージ ⑤東アジア型経済発展モデルの先駆者としての評価 ⑥第一級のODA供与国継続の期待、最近はイメージ上の評価と実務上の評価に変化が見られている。

日本政府は今後、この地域への経済協力としてODA中心から民間直接投資へ、また資源開発に傾斜しすぎない文化・学術交流も含む全般的な交流が望まれる。(文責:川崎高志)

宋慶齡さん  
のこと

## 宋慶齡さんもかつて日本の災害を救援 —60年前の十勝沖地震津波・九州大風水害において—

このたびの東日本大震災では、世界各国から「日本を助けよ!」の声が上がり、連日熱い支援がいろいろな形で届けられています。被災者とともに私たちまで心温まり、心強い思いになります。中国政府も即刻緊急援助隊15名を派遣、ついで総額約3億7500万円の毛布・テントなどと2万トンの燃油の無償支援を決めました。中国紅十字会も日赤に対して約7500万円の義援金の拠出を決めたといわれています。その



他、友好関係にある様々な団体から義援金が届けられつつあると聞きます。また、中国の学者・文化人などの日本人支援キャンペーンのなかでは、「日本人が中国の貧困地域の支援をしてくれている」と述べ、他方日本人は、究極の困難な状況の中でも秩序を乱さない、優れた資質を持っていると称賛しています。中国宋慶齡基金会も救援金の送付を申し出て下さっています。

そんな中、私は、かつて宋慶齡さんが中国救済総会主席として中華人民共和国建国まもない時期に、日本の災害被災者に義援金を送って下さ

たことを思い起こしています。記録によると、1952年3月北海道十勝沖地震と津波が大災害をもたらした時、札幌の主婦が毛沢東主席に手紙で悲惨な状況を伝えたところ、中国人民救済総会の返信とともに人民幣2億元が救済資金として送られて来たとのことです。また翌53年6月の九州大風水害の際には、日本国民救援会の布施辰治会長が、中国救済総会宋慶齡主席に書簡で救援を求めたところ、7月募金総額約

1800万円が送られて来たとあります。この時期は、講和条約をめぐって、日中間に不協和音があり、中国は戦後復興と建設がスタートしたばかりで、経済的には大変厳しい状況にありました。宋慶齡さんが東アジアの平和外交の先頭に立って活躍していた頃でもありました。故西園寺公一氏の回想によると、「彼女がウィーンの国際平和会議場で『スンチンリン(宋慶齡)…というリズムミカルな拍手に迎えられて議長席に就いた!』のもこの頃でした。

(久保田 博子)

2010年

- 12月 4日 第17回JCC中国講座「中央アジア・南コーカサスの政治・経済の現状と日本の立場」  
講師：田中哲二さん
- 12月 4日 《国画・孫文の生涯》展（神戸・孫中山記念館）を後援：諏訪代表参観
- 12月18日 第78回事務局会議  
第28回理事会

2011年

- 1月 5日 仕事初め
- 1月22日 第79回事務局会議
- 1月26日 会計監査
- 1月31日 総会議案書発送
- 2月 5日 高良真木さん(元理事) 告別式
- 2月19日 第80回事務局会議
- 2月27日 第29回理事会  
第9回総会
- 4月16日 第81回事務局会議：東日本大震災に対する緊急救援を検討
- 5月 2日 “為了明天” 第20号発行



## 第18回 JCC中国講座

ご案内

### 現代日本の課題 —上海で働く日本人女性から見えてくるもの—

講師：石川 照子 さん（大妻女子大学比較文化学部教授）

現在10万人の日本人が在住するという中国最大の経済都市上海、そこで働く日本人女性たちから見えてくる現代日本社会及び企業が抱える問題について、アンケート調査をもとに、ジェンダー視点から考察します。

日時 2011年5月14日(土) 午後2時～  
場所 八王子クリエイティブホール10F 第2学習室  
TEL.042-648-2231  
参加費 500円

主催 NPO法人 宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会

## JCC中国講座 第19回 予告

2011年11月5日(土)

### 辛亥革命百周年に考える 講師：久保田 文次 さん

アジアで最初の人民主権の共和国を建国してから百周年、台湾でも経済発展が世界の注目を集めたが、中華人民共和国はとうとう、規模の面では世界第二の経済大国になった。その歴史とともに「革命はまだ成らず」の孫文遺囑の意義を考えたい。

#### 編集後記

—「高台へ早く逃げよ」と殉職の声は<sup>とわ</sup>永遠に哭きて語られむ—  
胸も潰れそうな大災害の中で、けなげに苦難に耐えておられる被災の方々が、秩序を保ち、俱に助け合う崇高な姿!! ことに高齢者や子どもたちの様子など、テレビの前で、心は東北へ飛び、泣かずにはいられない日々でした。厳しい冬、本当に長い冬でした。この国難を超えて、一日も早く「明るい光を」と祈るや切!! (三浦)

#### 「為了明天」No.20

2011年5月2日発行 編集：三浦・井上  
発行所： 題字：周肖  
NPO法人 宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会  
代表理事 諏訪 ぎぬ  
〒192-0904 東京都八王子市安町1-43-6-206  
TEL/FAX 042-646-4210  
郵便振替：00170-2-152423  
三菱東京UFJ銀行八王子支店（普通）4731623